

NO 786 27 de Enero

DIRECCION:
USPALLATA 981
U. T. 23-7051, B. O.

EL "ARGENTIN DJIJO" AÑO XV

FRANQUEO PAGADO
CORREO ARGENTINO
TARIFA REDUCIDA
CONCESION 718

OSAKA SHOSEN KAISHA

Av. Roque Saenz Peña 616 U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 8566
2º PISO COOPERATIVA CENTRAL 2047 BUENOS AIRES

亞市然丁時報

DIARIO JAPONES

Director: T. MIDZUNO
Redacción: USPALLATA 981
U. T. 23, Buen Orden 7051
BUENOS AIRES

TARIFA DE SUBSCRIPCION
Un mes \$ 2.-
Tres meses " 6.-
Seis meses " 12.-
Un año " 24.-

大阪商船

買運松乗

船種	船名	往	出帆日	出帆時	乗積
客船	米貨	日本	四月十七日	午後七時	米貨 四〇九噸
客船	米貨	日本	四月十七日	午後七時	米貨 四〇九噸
客船	米貨	日本	四月十七日	午後七時	米貨 四〇九噸
客船	米貨	日本	四月十七日	午後七時	米貨 四〇九噸
客船	米貨	日本	四月十七日	午後七時	米貨 四〇九噸

●北米パナマ線由日本行(年十四回)横濱まで 四月十七日 (A型) 午後七時 出帆
●アフリカ線由日本行「毎月一回」門司まで 四月十七日 (B型) 午後七時 出帆
●南米パナマ線由日本行「毎月一回」門司まで 四月十七日 (C型) 午後七時 出帆

小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七才未満「四分の一」満三才未満無賃、満四才以上亞國生れの方は 亞國旅券必要
乗船費支拂 日本行運賃は全部米貨建です。一等は乗船切符買求め當日の換算率、三等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り運賃に米貨に換算します。一等は定額運賃(割の出國税が掛ります。二等は無税)
歸國御手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船手続の健康診断を受け下さす。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣
日本より御呼寄の便法當地にて乗船費御支拂あれば乗船券引換証書上まします。但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄証明書持参下さい
▲鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省汽車乗換の協同船便の代りに乗車券贈呈
▲弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする場合等社内航線切符贈呈(但し沖繩ハ參等五割引)

大阪商船會社指定
三等乗船切符仲次所
大阪商船會社社客御送迎に就ては懇切迅速に御便宜を御取計申可候間御遠慮なく下記へ御用命賜度候



船舶御用商
森川塩澤商店
PASSEO COLON 470
U. T. 33-4171
U. T. 33-4988

YAMASHITA LINE

FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE

AGENT
CHADWICK, WEIR & Cía.

25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

"K" LINE

KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.
KOBE, JAPAN

Representantes
J. E. TURNER & Co. S. A.
RECONQUISTA 325 U. T. 31-3491-3

Semillería EL COLONO

ABONOS :: HORMIGUICIDAS :: INSECTICIDAS
IMPLEMENTOS AGRICOLAS
SEMILLAS Y PLANTAS

J. S. GAGO

IMPORTACION DE SEMILLAS EN GENERAL
HERRAMIENTAS PARA JARDINES
GENERAL HORNOS 58
U. T. 23 BUEN ORDEN 7101
BUENOS AIRES

PIDA CATALOGO GENERAL

キリスト教青年ホーム
ペンシラン 定期又は一時的
聖書の研究 毎土曜日午後八時より御来会自由
郵便物取次 奉仕致します
守屋保吉

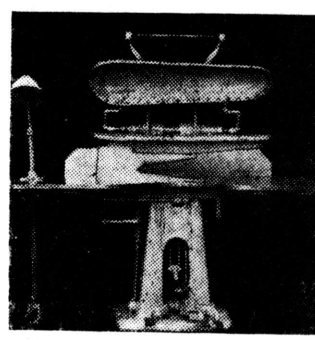
Caseros 1983
U. T. 23-9872

川崎汽船西廻世界一周航路
▲横濱比律賓海峽植民地印度及紅海沿岸諸港之運河經由加奈隆北米伯利爾亞爾爾丁亞爾爾丁伯利爾爾巴奈馬運河經由大平洋岸諸港横濱
優秀船八隻就航
日本向け貨物迅速丁寧取扱致します
川崎汽船株式會社

TALLER
MECANICO
de G. GONZALEZ
修繕其他
プラランチャ機
カルデーラの
SAN JOSE 220
U. T. 38 - 5923

時計修繕
電話で御一報次第参上致します
市内カビルド街一七七八
電話(五二)〇九三三
守屋利夫
CABILDO 1178
U. T. 52 - 0933

邦人間唯一の
染色工場
設備完全
仕事入念
齊藤染色工場
BELGRANO 3061
U. T. 45 - LORIA 5442



新案
T.B.P.V. 印刷機
カルデーアセント
リフター・クエーデヨ
のプラランチャ機
製造販賣修繕
高橋秀雄
Av. La Plata 1416
U. T. 60 - 9421

Foto TERAKAWA
FLORIDA 580
U. T. 31 - 8571
寺川寫真館
晝夜撮影
出張にも應じます

TOYOKEN
25 DE MAYO 356
U. T. 31 - 0739
東洋軒
料理部
純日本料理
折詰弁当
井物(切類)
晝食
配達致し
相変らず
市引立き

Masajista Japonés
SEGUROLA 1992-6
U. T. 67 - 4591
日本式マッサージ鍼灸
リウマチス神経痛呼吸器病
胃腸病その他一切の疾病に効き
日本膏薬は西坂商店で
取次願ってゐます
山田忠重

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA
INDUSTRIA ARGENTINA 1933-34
BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MONARCH
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"
Solicite informes

Cía. Brunswick Sudamericana S. A.
1894 - CANGALLO - 1900
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL
TACUARI 580
U. T. 34 - 1344
親切丁寧
顧客本意
浴室完備
まつや旅館
料理佳し井物一切
日本菓子製造致す
の会食に應じます

だ井物一品料理仕出し
すかまほご饅頭賣出し
御婚祝御誕生の祝儀
御注文に應じます
松田清市
BOLIVAR 1556
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA

カフエーバー
レストラント用の
メタル製品の
御用命は日本人間
に絶大の信用ある
ZANUSINI
月賦拂の御注文に
應じます
BERNARDO BRAUN e HIJO
CORRIENTES 4340
U. T. 54, Darwin 4111

A L M A C E N
NISHISAKA
AUSTRALIA 1101
U. T. 21-2915
醤油味噌
澤登香物 製造販賣
日本食料品輸入販賣
船中万應油
値段勉強配達迅速
西坂實太商店

DANCING
COLON
de MANOLO GOMEZ
LEANDRO N. ALEM 622
U. T. 31-1828
御酒其他の御飲料
品質本位正真正証保証付
タシシタ
コロシ
タシシタのリズムに合したホルデー
ニヤのサービスで南国情緒を
満喫あれ

御下宿
御旅館
地方より出武の御用は是非御寄願す
領事館銀行無会社と近く
御乗船御下船の便
昭和館
25 DE MAYO 330
U. T. 31 - 5145
BUENOS AIRES

"KEROGAS"
Ing. F. STUCKLER
U. T. 51-3252 PACHECO 3260
最新型ケマドリレス及び
タンクス・ア・プレシオン
製作販賣
諸種ケマドリル修繕・部分品
販賣・日本人間にも多数顧客
在りし仕事は入念迅速電話
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO
NIPPON
SANTIAGO DEL ESTERO 975
U. T. 23 - 7864
刷印版活文西
堂ニホツニ
種各他其・刺名簡封箋便
寸寸上款命用御拘不の少多
総 川 北

雜軍整理と抗戦を目指す

蔣介石の二石二鳥策

安徽省蔣作賓を免職

（香港廿六日）徐州を中心として注目されてゐる。抗戦軍の整理と抗戦を目指す。蔣介石の二石二鳥策。安徽省蔣作賓を免職。蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。

行政院会談

（香港廿六日）行政院会談。行政院会談の結果、蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。蔣介石は、安徽省の蔣作賓を免職し、安徽省政府を整理する。

寡兵よく敵を撃破

臨朐城を占領

（濟南廿六日）膠濟線全線。寡兵よく敵を撃破。臨朐城を占領。膠濟線全線、寡兵よく敵を撃破。臨朐城を占領。膠濟線全線、寡兵よく敵を撃破。臨朐城を占領。

ソ聯英政府に對し

閉鎖を要求せん

（倫敦廿五日）英政府は、ソビエト政府に閉鎖を要求せん。ソビエト政府は、閉鎖を要求せん。ソビエト政府は、閉鎖を要求せん。ソビエト政府は、閉鎖を要求せん。

米國労働總同盟

反自行動案を不參加

（ワシントン廿六日）米國労働總同盟。反自行動案を不參加。米國労働總同盟、反自行動案を不參加。米國労働總同盟、反自行動案を不參加。

東京海軍基地に侵入せしめ

英國貨物船起訴

（東京廿六日）東京海軍基地に侵入せしめ。英國貨物船起訴。東京海軍基地に侵入せしめ。英國貨物船起訴。東京海軍基地に侵入せしめ。英國貨物船起訴。

政府は上海方面に國策会社設立の意向

（東京廿六日）政府は上海方面に國策会社設立の意向。國策会社設立の意向。政府は上海方面に國策会社設立の意向。國策会社設立の意向。

戦時増税案

末月議会へ提出

（東京廿六日）戦時増税案。末月議会へ提出。戦時増税案、末月議会へ提出。戦時増税案、末月議会へ提出。

為替清算協定を設け

政府貿易振興を請せん

（東京廿六日）為替清算協定を設け。政府貿易振興を請せん。為替清算協定を設け。政府貿易振興を請せん。為替清算協定を設け。政府貿易振興を請せん。

南京空襲の敵機十二機

（南京廿六日）南京空襲の敵機十二機。南京空襲の敵機十二機。南京空襲の敵機十二機。南京空襲の敵機十二機。

新年号雑誌刊行

（東京廿六日）新年号雑誌刊行。新年号雑誌刊行。新年号雑誌刊行。新年号雑誌刊行。

藏田書店

（東京廿六日）藏田書店。藏田書店。藏田書店。藏田書店。

ぶんのす丸
はわいの丸
箱根山丸
三十一日出帆

★
支那軍戦術
あの手この手

無敵軍進撃の余味余味
突ひの爆弾の二三の破
片を御目にうつせやう

塹壕の工口戦術
誤れる。大地の娘

紅い唇、以手眉毛、アイランド
ウ、断愛の支那娘の態度から
グット半身のり出して、二の
腕返り、白魚の手でこまご
まの壕に向つて手を括する

片目をうつめて秋波を送つて
来る。勝つてゆく。勝つてゆく。
勝つてゆく。勝つてゆく。勝つてゆく。
勝つてゆく。勝つてゆく。勝つてゆく。
勝つてゆく。勝つてゆく。勝つてゆく。

集中射撃

互浴ひせて
来る。逆ト
リク一杯喰はせられておる
は露知らず、附はく、それ
こそ両敵と打つて来る。斯く
して敵は無駄なウント打た

打たせておいて北方は壕内
原いし顔をしてゐるのだ。
ところが此の支那の戦術
と夜にあらんと敵の壕に
マヤルマヤ左吹き鳴らし
大鼓叩き、ドンドンと黄色い
声をおけたりする。ドンドン
ビヤア、ウーン、ウーンと云々
が、どうと味方の支那兵を
題のたり発動する。そして
ト撃つて過ると思つて表へ
顔へ見ると、ゆが軍を夜
らせおいたための仕業とわか

又、この度し難い支那戦術
は性こりこりとおく、自ら
んで固まり、厥くる支那兵
左腕のし、さしかり大丈夫
様の中に身まかくし野辺の送
りに見せかけて我軍の状況
察に弄りして遂にそのま、天
國行をしようとするの悪
謀の抗日政策に随うされ、
おたり青雲を矢つて行く。若
し大地の娘連、の此が戦術
をみるのである

外見満員、但し役に立たぬ
支那軍のインチキ兵器

逃げ足の早い支那軍は戦線
るところに武器弾薬の置土
産を奪して行く、小銃強何万



自轉車大賣出し
日本製の子供用及び大人用の
自轉車が入荷致しました
同様の自轉車には特別割引致
します。御希望の方は
品切れがらぬ内に御買上
願います。地方へは直接発
送の御便宜を取計りします

安東商会
市内デフエンサ街五五の
U.T. 三三三(モルテン)三三九六

POLICLINICO DEL
D O C T O R
Corneyo Köster
AV. DE MAYO 1334 1º PISO D
U.T. 37-2239 DE 17 A 20 HORAS

治療卓効 費用低廉
コステル内外科医院
コステル博士はラモス・メニア病
院の医師、独逸心と医学互隊
の永年ベルンで医療に従事す

淋病梅毒皮膚病
胃腸心臓肺病腎臓
小兒科婦人科諸病
診療に應じます

CASA NAKASHIMA
CALLE GUTENBERG 3994
U.T. 50 - DE VOTO - 2363

新年用カレンダリオ
例年の通り新年用
カレンダリオ、ホラチワ
其他品類各種格
定にて販売致しま
す。未だ御座り
ます方は至急御註
文願います
タテンベルク街三九九四
中島商店

CHACO
「チヤコ」
美人ダンサー
百五十名
サーヴイス満点
日本人のモン五
滴入此で居り外
L. N. ALEM 474

POLICLINICO DEL
D O C T O R
Corneyo Köster
AV. DE MAYO 1334 1º PISO D
U.T. 37-2239 DE 17 A 20 HORAS

治療卓効 費用低廉
コステル内外科医院
コステル博士はラモス・メニア病
院の医師、独逸心と医学互隊
の永年ベルンで医療に従事す

淋病梅毒皮膚病
胃腸心臓肺病腎臓
小兒科婦人科諸病
診療に應じます

PARIS
L. N. ALEM 268

御遊興は是非
ダンシング、パリスで
舞踏場は所りよく、チヤコダンコ
二組のオルケスタあり
麗人百名、サーヴイス満点
ステインは僅の五十仙!

CONFITERIA
"EL ABRA"
LIMA 557
U.T. 38-4076

美味で滋養にあり便軟を防ぐ
ガチエタ(堅パン)
トリゴリーナ
五千口五十仙
市内は何処へでも
配達致します

JUGUETERIA TORRO
SARMIENTO 540

U. T. 34 - Defensa, 1687

トロイ玩具店

玩具御買求むは
廉價、在庫品豊富の
日本製玩具あり
御申込次第型録進呈

東大、科
医学士 **國分鉄藏**
左記に於て歯科医療の
御相談に應じます
ドクトル エドアルド キンターニヤ 歯科医院
市内 エドラス 街六九二、四階
デパルタメント N 電話三三一一四〇

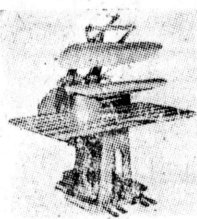
ホフマン式フランチャ機
並にカルテラの修繕取付
一切廉價に引受けます
ホフマン会社
指定修繕部 **トリビオゴニス**
Carlos Calvo 1159
F. 564
U. T. 28 - 4564

御旅館 **双葉**
御下宿 極めに應じます
和洋食月極めを願ひます
皆様の御愛顧を願ひます
尾崎幸千代
USPALLATA 812
U. T. 28 (B. Orden) 5755

齒科医療の
御相談に應じます
日本歯科
医学士 **山本実雄**
應接時間 午前八時—午後十時
市内 エントレリオス 街九七三
二階、ロートニニ一〇、五四二

自宅出張撮影
複寫引伸し
御用意、寫眞でも御引受け致す
市内 サルタ 街一五八
U. T. 三七一五七〇、四
寫眞師 佐藤貞則

オフマン式フランチャ機
顧客間に絶大の信用を博して居ります
何卒定評ある本機を御使用下さい
は、發賣以
来十五年



Hans Von Engelbrechten

REPRESENTACIONES
BELGRANO 525
U. T. 34-1497 - Buenos Aires

日本建築
文化住宅 **建築**
家具製造修理其他の御用命を願ひ
大工指物師 **山本 玄**
Av. del TEJAR 4817
U. T. 741 (Florida) 3150

FRANCISCO SANTERO
EX-MECANICOS Cta. HOFFMAN

新案 **T S B 印**
フランチャ機並にセン
トリアが製作販賣
カライ 街三二四一、角
Calle Danel 1438
U. T. 45 - 0294

Ernesto Coco

15 DE NOVIEMBRE 2335
U. T. 28 - 2835

ケロセン廉賣

永年日本人洗濯店
並に御家庭の
御最良を蒙つて居ります

RESTAURANT PAGODA

A. P. R. Saenz Peña 614.
U. T. 33 - 3738

中華樓 餐室

世界に誇る美味と營養
是非一度御試食願ひます

ラキリアム・ワン
ソシキペルド商会
代理人
グイセンテ
シニアリエロ
和 優良球根
入 各種販賣
RIVADAVIA 5871
U. T. 68-5962

MEDICINAL NEWS

28 - Suipacha - 28

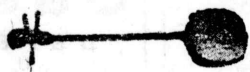
淋病梅毒 治療代は全治後頂きます
肺結核新療法 月々私物の便あり
婦人科 電氣治療科
X光線科 (各科専門医十名)
診察科 (三ツ) 午前九時—十二時
午後二時—八時
日曜祭日は午前中

SEMILLERIA
Juan Calé & Cia.

CASA MATRIZ
123 - PUEYREDON - 123
U. T. 47, CUYO 0065 y CUYO 0066
COOP. TEL. 1187, OESTE

Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3176
U. T. 62, Mitre 1054-C T. 323, OESTE

U. T. 47 Cuyo 8098-C T. 1105, Centr
Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425



琉球三味線教授
土曜日午後二時より
初等科
日曜日中等科
安里亀榮
MOMPON 1646
U. T. 28, B. Orden 8424

SASTRERIA "TORRO"

SARMIENTO 654
U. T. 35, Libertad 1392



品質本位
仕立入念
八十五ペソ
より各種
トロイ
高等
洋服店
この店告切致す
御持参の方には
一割引致します

CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

Dr. A. GODEL

Médico Cirujano

最新式獨乙療法
 淋病—根治療法
 梅毒—六〇六号九一四号
 婦人病心臓胃腸 各科専門
 肺腎臟神経系統
 ①日本人方には初診無料
 X光線 デアテルミ、血液検査
 診察日—自午前九時 至十二時
 自午後三時 至九時
 日曜祭日は午前中

無痛歯抜 ニベソ
 セメント充填 五ベソ
 金冠 拾五ベソ
 金入歯 拾五ベソ
 総入歯 六拾五ベソ
 診察時間
 午前九時より
 午後八時まで

DR. E. BULJEVICH

BDO. DE IRIGOYEN 1404
 U. T. 23 - (B. O.) 0279

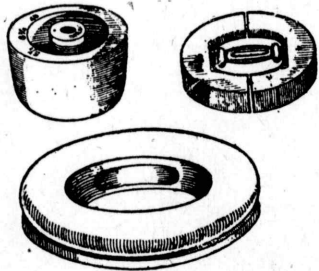
GRAN "EL ASAHI" TALLER

de MIYAZONO Hnos.

Casa Matriz:
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366
 Sucursales:
 BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738
 BUENOS AIRES
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 48
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントレリアの仕立の
 上り下りは型の善悪
 に依ります。
 仕事を上り下りにする
 には良い型を使わね
 ばなりません。
 弊工場はマデラ、アラ
 マデラ、コロラ、アルカ
 ーノ、型等流行型あり
 りゆり型を最新より市
 場で供給し、田舎から
 の御注文にも應じます。

CAFE JAPONE S

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市
 内野喜吉

KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

M. SEITZ & Cia.

Exposición y Venta:
 DEFENSA 321
 U. T. 33-1529

Talleres:
 CHARCAS 4511
 U. T. 71-9998

プレンチヤ機
 カルデー用のケマ
 ドレスデケロセン
 製作販売修繕取
 付交換引受り。
 当方はカーサボ
 カン以未御馴染の
 独り人々日本人間
 数多の顧客を有し
 仕事は入念迅速。電
 話で御一報次第至
 急参上致します。

CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二
 久松純雄
 竹内武義
 加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526 BUENOS AIRES

Casa MALIS

DEFENSA 717
 U. T. (33) 4382

カフェエド
 就労用衣類の
 御用命は弊店へ
 サコラシコ ミニ
 黒チヤコ ミニ
 黒サコ ハン
 上等キタホッ



Herrero y Magioncalda

AUTOMOVILES Y CAMIONES
 NUEVOS Y USADOS

Reparaciones en general

La casa más acreditada entre la colectividad japonesa

PAVON 3737

(LANUS)

U. T. 241, Lanús 793

**新旧自動車
 修繕並に販賣**
 当店は日本人諸彦間に
 絶大の信用と数多の顧
 客を有して居ります



GRAN
 MERCERIA
 Y BAZAR

Casa fundada en el año 1928

PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA

Ultimas Novedades Para la Moda
 Creaciones en Articulos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

具服大物・小間物
 雑貨・最新流行婦
 人用品及び御家庭
 用品一切小賣店
 同様に限り別別
 保険事務一切
 公認代理人
林甚次郎
 優良品
 廉価販賣
 C. Pollegni
 1153
 U. T. 41,
 Plaza 1306

TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



カルボンナフタ又はガス洗
 乾燥機(寸廻し又はモートル)
 其他洗濯機種の修繕に應ず

La Dieta Imperial en Sesión

La Dieta Imperial del Japón, inició el sábado 22 del corriente las tareas correspondiente al 73º período de sus sesiones ordinarias con los discursos de los ministros del Gabinete.

El primer ministro, príncipe Konoye, confirmó en el parlamento las declaraciones dadas públicamente el día 16 del corriente, la resolución del Gabinete, de acuerdo con la Conferencia Imperial, explicando la política para afrontar la situación, y exhortó a la nación a fin de que redoble sus esfuerzos hasta alcanzar a estabilizar la paz duradera en el Asia Oriental.

Los ministros de guerra y marina, general Sugiyama y almirante Yonai, estudiaron la situación militar en China, hallándose de acuerdo para atribuir el éxito de las fuerzas niponas al valor y a la lealtad de los oficiales y soldados del frente, como también al apoyo prestado por todo el país.

El general Sugiyama declaró que desde los comienzos de las hostilidades, China lanzó a la refriega más de 1.500.000 hombres, de los cuales más de la mitad resultó muerta o herida. El orden y la paz quedaron casi completamente restablecidos en los territorios ocupados hasta ahora, con excepción de pocas regiones, en donde, pequeños grupos de chinos aislados continúan operando furtivamente. Las pérdidas en la batalla de Nankín han desmoralizado al ejército chino. Sin embargo, el mariscal Chiang-Kai-Shek, se prepara para una guerra de larga duración y reúne sus tropas desbandadas. Tal es el motivo que ha determinado a las tropas japonesas a afrontar esta nueva situación, completando sus armamentos y redoblando sus esfuerzos en favor del Emperador y del Imperio.

El almirante Yonai, anunció que el bloqueo de las costas chinas es tan perfecto que los buques y los juncos chinos ya no pueden navegar. El bloqueo no está dirigido a las potencias extranjeras. Pero las unidades japonesas adoptaron las medidas pertinentes para verificar las nacionalidades de los buques extranjeros, dado que los buques chinos enarbolan banderas extranjeras.

Al relatar el avance japonés en la región del río Yang-Tzé, afirmó que hasta ahora no ha sido hundida ninguna unidad de la armada japonesa, aunque fueron derribados 65 aviones nipones. Pero, en cambio, China perdió 27 buques de guerra y 659 aviones.

La marina japonesa posee ahora, termino diciendo, la supremacía en las aguas chinas. Pero a pesar de los éxitos logrados, todavía está lejano el fin de las hostilidades, dado que China se obstina en proseguir la lucha contra el Japón, contando con el apoyo extranjero.

El ministro de hacienda, señor Kaya, anunció que el presupuesto para el ejercicio 1938-39, fué establecido teniendo en cuenta una guerra larga. Hizo ver la necesidad de una estrecha cooperación entre el gobierno y el pueblo para asegurar el éxito del programa económico que debe permitir al Japón llevar a buen término su expedición en China. El presupuesto fué elaborado para procurar al Gobierno todo el dinero y el material necesarios para proseguir la campaña. Los 2.867 millones de yens representan el total del próximo presupuesto, que acusa una reducción de 40 millones sobre las entradas del presente ejercicio. Los gastos de la expedición de China serán cubiertos por un presupuesto especial — extraordinario — para la defensa nacional que será sometido oportunamente a la aprobación de la Dieta.

La revisión del sistema fiscal fué encarado, fué descartada provisionalmente dado el fardo de obligaciones que pesa sobre el contribuyente a raíz del conflicto en China. La mayor parte del presupuesto extraordinario será costado por emisiones de bonos del Tesoro.

El señor Kaya, hizo resaltar que a pesar de las cargas provenientes de las hostilidades, la economía japonesa ha desarrollado favorablemente y se alegra de que los acontecimientos de China no repercutieron en el mercado de las divisas — que se mantienen en el nivel de agio de 14 peniques — y agregó que la política del Gobierno tiende a mantener el yen y reajustar los pagos internacionales por el aumento de las exportaciones y por la reglamentación de las importaciones, permitiendo reducir los pagos al exterior. Se adoptarán medidas necesarias para aumentar la producción, fiscalizar el consumo, reprimir las especulaciones y regular los precios. Terminó diciendo que gracias al poder económico unido al patriotismo, a la tenacidad y al ingenio de la nación, el Japón no tiene nada que temer de la duración del conflicto.

El ministro de Relaciones Exteriores, señor Koki Hirota, pasando revista a la política exterior del Japón, reiteró las explicaciones dadas por el primer ministro, declarando que el Japón no tiene ambiciones territoriales en China ni tiene el propósito de separar del resto el norte de ese país. Todo lo que desea es que China, adoptando un punto de vista amplia, colabore con el Japón para realizar el ideal de la cooperación chino-japonesa para la prosperidad y el bienestar común de ambos países.

De acuerdo con esto, aún después de estallar el conflicto actual intentamos ansiosamente unir nuestras fuerzas con las de China con el propósito de asegurar la paz en el Asia Oriental, tan pronto como el gobierno nacional chino hubiese dejado de lado su política de oposición al Japón y Manchukuo, demostrando un sincero deseo de trabajar juntos en favor de ese ideal japonés.

Ya las heroicas operaciones de nuestros valientes y leales fuerzas del norte y del sur han obligado al gobierno nacional chino a abandonar Nankín, su capital, y a huir lejos, pero todavía impenitentes, persiste en su desesperada oposición. Esto es sumamente lamentable tanto para el destino del resto de Asia en conjunto como para el pueblo chino.

Luego, reveló las condiciones de paz que el Gobierno del Japón, le ofreció al Gobierno de Nankín, a través del gobierno de Alemania, con el objeto de proporcionar la última oportunidad para reconsiderar su actitud, concebidas en los siguientes puntos básicos:

- 1.º El abandono por parte de China, de su política comunista, antijaponesa y antimanchuriana, y su colaboración con el Japón y Manchukuo en la política anticomunista de estos dos países.
- 2.º El establecimiento de zonas desmilitarizadas y de un régimen especial en las localidades en que ello fuera necesario.
- 3.º La conclusión de un convenio económico entre el Japón, China y Manchukuo.
- 4.º El pago por parte de China al Japón de las indemnizaciones necesarias.

Sin embargo, añadió el señor Hirota, el gobierno de Chiang-Kai-Shek, ciego ante los grandes intereses del este de Asia, desconociendo nuestra magnanimidad y la amistosa intención de Alemania, no demostró ninguna disposición a pedir fran-

camente la paz, y sólo trató de retardar el asunto y finalmente dejó de enviar respuesta alguna que pudiese ser considerada sincera.

Por lo tanto, el gobierno nacional chino, al desechar premeditadamente la última oportunidad que se colocaba a su disposición, el gobierno japonés hizo ver claramente que no quedaba ya esperanza de llegar jamás a una solución pacífica del conflicto.

Es debido a estas circunstancias que el gobierno japonés publicó el 16 del corriente mes una declaración de que desde ese momento se dejaría de tratar con el gobierno nacional chino.

Como se explicó claramente en esa declaración, nuestro gobierno ahora piensa en el establecimiento y desarrollo de un nuevo régimen de gobierno chino capaz de colaborar con el Japón.

Refiriéndose a la tendencia extranjera a reechar sobre las intenciones del Japón, como si estuviese tratando de cerrar las puertas chinas y expulsar a las naciones interesadas en ese país, manifestó que no sólo el Japón respetará en toda su amplitud los derechos e intereses de las naciones en las zonas ocupadas, sino que está dispuesto, con el fin de fomentar el bienestar del pueblo chino, a dejar completamente abiertas las puertas a todas las naciones y acoger allí su cooperación cultural y económica.

Es de desear que las naciones cooperen en el establecimiento del nuevo orden en el Extremo Oriente, reconociendo las nuevas condiciones que prevalecen en China y apreciando adecuadamente los pedidos japoneses de ajustes necesarios y racionales que hayan sido sometidos o puedan ser sometidos en el porvenir con el fin de hacer frente a esas condiciones.

DOS PRIMEROS UNIVERSITARIOS ARGENTINOS BECADOS POR UNA INSTITUCION JAPONESA VAN A ESTUDIAR A TOKIO

El Instituto Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino, que tramita por encargo de la Legación del Japón, la adjudicación de dos becas otorgadas por el Instituto Internacional de Estudiantes de Tokio con el auspicio del Gobierno Imperial del Japón, ha hecho saber la resolución de las siguientes designaciones recaídas a dos universitarios distinguidos:

Beca para las "Ciencias": al Dr. M. Alberto Pelicano, médico graduado en la Facultad de Ciencias Médicas de la Universidad de Buenos Aires, perteneciente al Hospital Pirovano y adscripto en el Hospital Muñoz, que se propone perfeccionar en el estudio de las enfermedades de Lepra y Sífilis.

Beca para la "Cultura Japonesa": al profesor Victorio Franceschini, maestro normal, profesor de enseñanza secundaria y graduado en la Facultad de Filosofía y Letras de la Universidad de Buenos Aires, quien ejerce desde hace años la profesión de maestro, debe realizar un estudio completo de la organización, sistema educacional y método de enseñanza en los tres ciclos: elemental, secundario y superior, además del estudio especial de la cultura general del Japón.

El almirante Pedro S. Casal, vice-presidente del Instituto, quien hizo las notificaciones personalmente, al propio tiempo de felicitar a los agraciados, les impuso de la importancia de este paso iniciar del intercambio de estudiantes entre el Japón y la Argentina, la responsabilidad de los mismos, de quienes, "confío que sabrán representar dignamente a la institución universitaria y a la cultura argentina en el Japón".

Los señores Pelicano y Franceschini fueron muy felicitados por las autoridades del Instituto y del secretario de la Legación del Japón, señor S. Hosokawa, que incidentalmente estuvieron presentes en el acto.

H. KATO

Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

PAGINA DE ACTUALIDADES

EL PAPA RECIBIO AL ALMIRANTE YAMAMOTO

Ciudad del Vaticano, enero 21. — El Sumo Pontífice, recibió hoy al vice-almirante japonés Yamamoto, a quien concedió una audiencia de media hora. Luego el marino visitó al cardenal Pacelli.

El almirante Yamamoto lleva la misión de los católicos del Japón para explicar la verdad del incidente chino-japonés, y para hacer conocer a todos los católicos del mundo el peligro del comunismo que defiende el Japón, para salvar la civilización humana.

NUEVOS CAMINOS EN EL JAPON

El ministerio del interior del Japón tiene proyectada una obra caminera para mejorar los ya existentes y para construir algunos nuevos, que costarían 300 millones de yens, esperando terminarlos para el año 1940, año en que se celebrarán los juegos olímpicos en Tokio, juntamente con la Exposición Universal.

VIDA ESCOLAR JAPONESA A TRAVES DE LA CAMARA

La Kokusai Bunka Shinkokai — Sociedad de Fomento de Cultura Internacional — de Tokio, ha confeccionado un álbum de vistas de fotografías de la vida escolar del Japón, desde el jardín de infantes hasta la vida universitaria, un conjunto ilustrativo de las instrucciones que se dan allí con métodos y equipos más modernos.

Estas vistas serán utilizadas aquí con fines de propaganda cultural.

CONSULADO GENERAL EN WELLINGTON

Tokio, enero 24. — El Ministerio de Relaciones Exteriores Japonés, instaló en Wellington, de Nueva Zelanda un Consulado General de su país, cuya apertura se anuncia para el día 24 del corriente mes. Ha sido designado para ocupar ese cargo el señor Gunkji Kiichi que será así el primer Cónsul General.

EL MOVIMIENTO DE LAS FUERZAS CHINAS

Sinan, enero 24. — Se acentúa visiblemente la actividad de las fuerzas chinas de la zona del F. C. Lung-Hai.

En Kinsiang, al suroeste de Sining está concentrada la 74.ª división del ejército y la 29.ª, se les agregado últimamente la 38.ª división una parte de esta última avanza hacia el Norte tomándose la posición de batalla frente a Sining.

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

INTERPELACION EN LA CAMARA DE LOS PARES

Tokio, enero 24. — En el último número publicado en enero próximo pasado de la revista "Kaizo" se publicó la declaración-respuesta del Ministro del Interior, señor Suetsugu, provocando sensible eco en la opinión pública dentro y fuera del Japón. Acerca de este asunto en la Alta Cámara, ante el interrogatorio del señor Kosaka Junzo, del Partido, Dosei, contestó el citado ministro en los siguientes términos: "Siento sinceramente que mi declaración haya provocado una errónea interpretación en el extranjero y la discusión en la Revista "Kaizo". Sin embargo, estas consecuencias se debe solamente a que ha sido extraída sólo una parte del texto, traducido equivocadamente y alterado el contenido exagerándolo mucho. Es por esto que creo firmemente que si cualquiera persona leyese íntegramente el texto original se evitaría semejante error. Aprovecho la oportunidad para expresar mi opinión acerca del diálogo publicado cuando aun no ocupaba este puesto. Yo manifesté que si China continuara resistiendo militarmente sólo contribuiría para aumentar el sufrimiento de su pueblo. Esto significa evidentemente una desgracia no solamente para China, sino también para el resto del mundo. Sobre todo creo que es así para el Japón e Inglaterra. Por consiguiente, Inglaterra no debería apoyar ni incitar a China, pues solo la hace cada vez más infeliz. Si sucediese esto, creo necesario pedir reflexión, a Inglaterra, acerca del asunto, para el bien de todos.

LA HORA DEL JAPON

Alejandro Sux, que colabora diariamente desde París, al diario "El Mundo", que vive con el pensamiento francés, con mucho retardo, ha comprendido al fin la verdadera situación del Japón en el conflicto chino-japonés, aunque lo explica con un criterio francés que no puede armonizarse con el ideal japonés para él demasiado generoso, ha debido, sin embargo, reconocer que el mundo vive actualmente: "La Hora del Japón".

Ha dicho la verdad: "La hora del Japón ha sonado en el reloj de la historia universal".

WINSTON CHURCHILL DEFIENDE LA POLITICA IMPRUDENTE DE AYUDAR A CHIANG-KAI-SHEK

Nueva York, enero 24. — En los círculos vinculados a las esferas oficiales llama la atención la propaganda sistemática y, al parecer dirigida, de la prensa y de los publicistas británicos, destinada a excitar a la opinión pública norteamericana contra el Japón, en su tentativa de colocar frente a frente a los Estados Unidos con ese país. Ese propósito aparece bien perfilado en las recientes manifestaciones de Winston Churchill: "Se comienza a hablar en Gran Bretaña de que si el gobierno de Roosevelt estima que es su deber — sea su interés de los Estados Unidos, sea en interés del mundo — hacer sentir su peso en la causa de la paz y el orden en el Lejano Oriente, el Imperio Británico se asociará a su actitud con todo su corazón y con todas sus fuerzas".

Un autorizado comentarista al referirse a esta frase de Churchill, dijo: El conocido político inglés parece que cotiza muy alto la ingenuidad del gobierno y del pueblo norteamericano. No se explica en otra forma su pretensión de que muerda el anzuelo de arrastrarlos a una guerra contra el Japón, para defender sus intereses en el sur de China, que se encuentran amenazados por su imprudente ayuda a Chiang-Kai-Shek.

CUATRO DIARIOS QUE REFLEJAN LA OPINION MUNDIAL

El conocido periodista y crítico, Mr. Robert W. Desmond, en su reciente libro titulado: "The Press and World Affairs" — La prensa y los asuntos mundiales — analiza los diarios de todo el mundo y llega a la conclusión de que son cuatro los más grandes diarios con que cuenta la humanidad, los que mejor reflejan la palpación del mundo: "The Times", de Londres; "La Prensa", de Buenos Aires; "The Christian Science Monitor", de Boston y "The New York Times", de Nueva York.

Para sustentar su afirmación dice el Dr. Desmond que esas publicaciones tratan con perfecta ecuanimidad los asuntos públicos; que poseen un excelente servicio noticioso bajo la más completa imparcialidad; que son económica y moralmente independientes; que publican un voluminoso material sólidamente autorizado; que llevan a sus lectores, en forma inteligente y amplia, todos los asuntos de positivo interés, sea cual fuere el lugar en que ocurran.

ECOS DEL ACCIDENTE DE ITACUMBU

En ocasión del accidente de aviación de Itacumbú, la Cámara de Comercio Japonesa en la Argentina y el Instituto Cultural Argentino-Japonés, enviaron al señor Presidente de la Nación, las expresiones de pésame por la desgracia sufrida por la Nación y la familia del primer mandatario.

El general Justo contestó a ambos con expresivos telegramas de agradecimiento.

FUE CENSURADA LA POLITICA BRITANICA EN LA DIETA JAPONESA

Tokio, enero 25. — Durante la sesión de ayer en la Dieta, el Barón Takechiko Sonoda, pronunció un enérgico discurso en el que, después de elogiar la actitud de los Estados Unidos, tuvo palabras de censura para la política de Gran Bretaña.

"Si Inglaterra insulta a las razas orientales, dijo, y si no respeta la posición del Japón en el Extremo Oriente, el gobierno japonés no estará en condiciones de garantizar la continuación de los derechos e intereses de Gran Bretaña, en China. Sería muy oportuno que el gobierno de Londres se dispusiera la suspensión de su plan de enviar la flota a Asia y se abstuviera de irritar innecesariamente al pueblo japonés".

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolifera - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

De los Recursos Financieros del Japón

Por G. YOSHIO SHINYA

Nadie ignora hoy la situación de importancia industrial y comercial alcanzado por el Japón en los últimos años, que ha sorprendido al mundo, y de cuya expansión se ha hablado hasta la exageración. No obstante, esa realidad, la mayoría de la gente, incluso los estudiosos, continúa desconociendo la verdadera condición económico-financiera del Imperio del Sol Naciente, y formulan preguntas dudando de la capacidad financiera de éste para soportar una hipotética hostilidad larga en China.

El siguiente estudio basado sobre las condiciones reales prevalecientes ahora en el Japón, con citas de opiniones de autoridades en la materia, no sólo aclara su situación ante el conflicto chino-japonés, sino que aporta informaciones útiles para todos los que se interesan de las cuestiones económico-financieras, por cuanto, los datos que contiene explican la magnitud de la potencia financiera del Japón de hoy, y los sorprendentes progresos realizados en su rápida evolución de los últimos lustros.

El pesimismo acerca de la situación financiera del Japón, que nace de la ignorancia de las condiciones actuales del país, no tiene ningún fundamento real. Lord Lytton, en su famoso informe predijo que el Japón sufriría un desastre financiero en Manchuria, pero su profecía no se cumplió. El Japón invirtió allí desde entonces 1.200 millones de yens en empresas industriales y comerciales, además de gastar otros tantos para mejorar las condiciones administrativas y defensas de ese territorio, sin que sufra en lo más mínimo la situación del Imperio que, por el contrario, se ha venido desarrollando de un modo muy satisfactorio.

Durante los 30 años transcurridos desde la guerra ruso-japonesa, la riqueza nacional del Japón ha crecido enormemente, según se constata en el Anuario Económico de la Liga de las Naciones: de 22.742 millones en 1904 a 110.188 millones de yens en 1930, y actualmente llega a 120.000 millones, en tanto, que su equipo industrial se ha desarrollado de tal manera que la nación se halla preparada para hacer frente holgadamente a las necesidades de la emergencia actual, dice el señor Hirozo Mori, conocido banquero nipón, quien agrega: que los índices de las industrias nacionales son convincentes para afirmar nuestra capacidad financiera, para sostener con éxito la justa guerra a que nos han obligado los chinos, aun cuando interviniera una tercera potencia en su ayuda, detrás de las cortinas. Nosotros, los banqueros del Japón, apoyaremos al Gobierno, todos unidos como un solo hombre, en la realización de la magna obra que estabilizará la paz del Extremo Oriente.

La reserva de oro que posee el Japón en la actualidad, que equivale a unos 400 millones de dólares, cubre el 100 por ciento de la circulación de los billetes del Banco del Japón, que en julio de 1936 era de 1.309.674.000 yens y en el mismo mes de este año, 1.472.209.000 yens, los cuales equivalen respectivamente a 370 y 420 millones de dólares, como lo señala el señor Toshie Obama, editor económico del diario "Chugai Shogyo Shimpō".

Es verdad que el Japón ha debido exportar oro para balancear el comercio exterior por el exceso de importaciones sobre exportaciones este año, pero el Japón produce anualmente alrededor de 200 millones de yens de oro en sus minas, con perspectiva de un aumento considerable para los años venideros, especialmente con la producción del Manchukuo. Y el balance de pagos invisibles ha sido y continúa siendo favorable al Japón. En 1933, el saldo a su favor fué de 110 millones; en 1934, 192; en 1935, 178 millones y en 1936, según cálculos, resulta más o menos igual que el del año anterior. El saldo del año 1937 se estima que será superior en un 30 por ciento sobre el monto del año 1936. Los principales renglones del activo del balance del año 1935, fueron: Marina Mercante, 313 millones; créditos de capitales invertidos en el

exterior, 214; Seguros, 129 millones. El pasivo: Fletes marítimos, 126 millones; Seguros, 129; Gastos del Gobierno en el exterior, 160; Servicio de la deuda, 135. Ambas cuentas en conjunto representan el 80 por ciento del total de su rubro.

La circulación de 1.400 millones de yens de moneda de papel en un país de 70 millones de habitantes — 20 yens per capita — es la proporción más baja que existe entre las principales naciones de Europa y de América.

El comercio exterior de los primeros ocho meses de este año arrojó un exceso de importación sobre la exportación de 200 millones de yens; pero el 80 por ciento de las importaciones lo constituían las materias primas que dan trabajo a la industria. La exportación en el período mencionado aumentó un 25 por ciento comparada con la del mismo período del año anterior, y la exportación total del año 1937, según telegramas recientes, alcanzó a 3.318.936.000 yens, marcando un aumento de 521.227.000 yens comparada con la del año 1936.

Para la guerra ruso-japonesa de 1904-05, que duró 1 año y 4 meses, el Japón gastó 2.000 millones de yens, o sea diez veces más que en la guerra chino-japonesa de 1894-95. La mitad de esos gastos fueron cubiertos por los empréstitos en el extranjero. El recurso monetario del Japón de ese entonces no pasaba de 1.000 millones de yens; pero esos recursos, (llamado capital financiero) del Japón de hoy, están estimados en 30.000 millones de yens, 30 veces mayor que en 1904, de manera que la nación podrá costear un gasto anual de 2.000 ó 3.000 millones de yens, sin ocasionar ningún trastorno al sistema financiero del país.

El país que ha sabido soportar el colosal desastre del terremoto de 1923 que le costó 10.000 millones de yens para su reconstrucción, no puede verse ante dificultades para afrontar los gastos que demande la emergencia nacional de 3.000 millones de yens anuales.

Los ahorros de la nación han tenido un aumento enorme en los últimos años. En efecto, suman 20.000 millones los ahorros en conjunto de las cajas de ahorro postal, ahorros de los bancos y de las asociaciones cooperativas, que en 1932 ascendían a 15.000 millones de yens.

Las rentas de la nación han tenido el incremento correspondiente al progreso industrial y comercial de los últimos años. En 1928, el total de las ganancias brutas del pueblo fué estimado en 12.500 millones, que en 1930, bajó a 10.000 y en 1932 a 9.000; pero iniciada la mejora a fines de ese año, en el presente llega a 14.000 ó 15.000 millones.

Los impuestos que recauda el Gobierno Central, que en 1928 sumaron 916 millones y en 1932, por causa de la crisis, mermó a 696; en 1937, según presupuesto, está estimada en 1.250 millones de yens.

Si el pueblo rebajara los gastos de la vida al nivel del año 1928, el gobierno podría conseguir un aumento en los impuestos que llegarían hasta 2.000 millones; y si el standard de vida fuera rebajado al nivel del año 1932, él podría pagar en concepto de impuestos adicionales hasta 4.500 millones de yens o más, según estima el señor Tokuji Uchiyama, economista que forma parte del Directorio del "Oriental Economist", de Tokio.

El aumento de 1.000 millones en los impuestos,

por otra parte, no significaría para el pueblo, sino el 15 por ciento de su entrada bruta, una tasa menor que la que rige en Gran Bretaña o en los Estados Unidos. Y un aumento de 2.000 millones pondría al pueblo japonés una carga solo parecida a la que lleva él de Gran Bretaña.

Y, si se fijara la tasa del interés en 3,5 por ciento y la amortización anual en 5 por ciento, se podrían emitir bonos de la tesorería hasta 23.500 millones de yens contra el aumento de los impuestos hasta 2.000 millones. Con la recaudación de 5.000 millones en impuestos, se podrá emitir la deuda nacional hasta 58.800 millones de yens, y teóricamente el pueblo del Japón, podrá soportar hasta ese límite.

El señor Ginjiro Fujihara, destacado miembro de la Cámara de los Pares del Imperio y reconocido experto en asuntos financieros, recuerda, que en ocasión del incidente Manchuriano en 1931, acudieron en procura de su opinión numerosos representantes, diplomáticos y periodistas extranjeros, ninguno de los cuales creían que el Japón hubiese estado capacitado para invertir anualmente 200 ó 300 millones de yens, sin quebrantar su situación financiera, máxime cuando esa inversión no podía dar ninguna retribución durante largo tiempo; cuando él respondió invariablemente a todos que el Japón no sólo estaba en condición de poder hacer eso, sino que podía disponer, además, de 400 a 500 millones de yens, si fuera necesario, sin que ello afectara a la finanza nacional. Y ahora, frente al incidente chino-japonés, se repite la misma situación, afirma el señor Fujihara, en una escala mayor.

Antes del incidente manchuriano, por ejemplo, las exportaciones japonesas a China estaban evaluadas en 260 millones de yens por año. Y si bien es cierto que este comercio fué grandemente disminuído por causa del "Boycott" fomentado sistemáticamente por parte de los chinos, a tal punto que en 1936 su merma llegó hasta 100 millones, la diferencia ha sido, sin embargo, sustituida con creces por el aumento de las exportaciones japonesas hacia Manchukuo y la península de Kwantung, las que llegaron a 150 y 260 millones respectivamente. La pérdida, pues, de los 100 millones con el comercio chino, fué compensada con la ganancia de 410 millones de yens de comercio con la Manchuria, resultando un beneficio para el Japón de 310 millones. Lo mismo sucederá con el Norte de China y otras regiones del territorio chino bajo el dominio del ejército nipón. La actividad de las fuerzas financiera, industrial y comercial, detrás del ejército, que, sin pérdida de tiempo, prestan servicios a la patria con sus esfuerzos para normalizar la situación económica de ese territorio, lo comprueban con elocuencia.

El Japón es un pueblo activo y está obligado a trabajar para mantener su densa población; la industria y el comercio son su vida. Los principales artículos de importación del Japón, son: el algodón, hierro y acero, lana y pulpa de madera. Será menester ajustar esas importaciones para mejor balancear el intercambio y para mantener el equilibrio del cambio del yen. Será necesario consumir menos y exportar más. Durante el año 1936, Japón importó algodón por valer de 850 millones de yens, de los cuales se exportó hasta la suma de 500 millones en productos manufacturados, siendo, por lo tanto, consumido el resto o sean 350 millones en el país. Estudian, el gobierno y el pueblo unidos, el modo de consumir menos para exportar más.

(Continuará)

KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO — JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shinya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 16 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

Influencias Occidentales en la Historia y en la Cultura del Japón

(CONTINUACION)

Por IZURU SHINMURA

Ya en los últimos días del siglo XVIII, llegaron a las dos ciudades más importantes con que entonces contaba el Japón, primeramente a Osaka y a Yedo después, astrónomos de reconocida competencia.

Los grandes esfuerzos desplegados en el estudio de la Astronomía a través de los nuevos libros alemanes por un lado y por el otro mediante las traducciones Chinas, dieron su fruto: en 1798 se revisó con mucha proligilidad y exactitud, el calendario japonés. Además, se trazó un mapa completo del país. Como esos trabajos se hicieron por el observatorio del Shogunato Tokugawa, se estableció al mismo tiempo un instituto del estudio de ciencias occidentales. En 1811 se estableció, anexa al Observatorio, la Oficina de Traducciones de Obras Alemanas, habiéndose llamado después, a un experto y joven intérprete oficial de Nagasaki, excelente conocedor de la lengua alemana y profundamente embebido en aquella mentalidad, el cual dirigiendo a los antiguos estudiantes de Yedo, organizó los trabajos de traducción de una enciclopedia alemana. Tal es el origen remoto de la fundación de la actual Universidad Imperial de Tokio. En un principio, el trabajo de traducción se llevó a cabo según el orden siguiente: astronomía, geografía, otras ciencias naturales y finalmente, industrias. Con posterioridad se tradujeron trozos relativos a historia y etnología. Se elaboró también por la Oficina de Traducciones, un

mapamundi con el Japón como centro y se publicó en grabado. No se hicieron, sin embargo, traducciones de libros relativos a materias políticas, económicas, religiosas ni filosóficas. Los libros de esa especie quedaron ignorados tanto para el círculo oficial como para los particulares.

El movimiento general del mundo durante el primer cuarto del siglo XIX, se encaminó a romper poco a poco el aislamiento del Japón. Este país tuvo que enfrentarse entonces con diversos asuntos, tales como la cuestión de su agricultura al intercambio con el exterior o su permanencia en el aislamiento; el problema de la defensa nacional y el que implicaba el despertar del espíritu japonés. Las preocupaciones, conservadora y progresiva al mismo tiempo, por cuanto a esos problemas, crecieron rápidamente. El tiempo de que disponemos no nos permite abordar las grandes cuestiones de la ideología y la política.

Para terminar deseo tocar una importante cuestión, a saber: si los dos siglos de aislamiento del Japón fueron o no, provechosos al país. Acerca de este punto se han esgrimido diversos argumentos por los sabios occidentales desde los tiempos de Kaempfer, hace doscientos cuarenta años. En el Japón, aún entre los estudiosos contemporáneos, se encuentran observaciones contradictorias. Por mi parte, me inclino a creer que la política de aislamiento fué provechosa para el Japón. Es innegable que debido a este retiro, el Japón se que-

dó atrás en el campo del progreso universal, con resultados que parecen irreparables. Sin embargo, pienso que en muchos aspectos el Japón estuvo afortunado por cuanto pudo disfrutar de dos siglos de paz, dentro de las condiciones generales del mudo, limitando hasta el mínimo los contactos, las negociaciones con las naciones extranjeras. Durante esa era de paz estuvo capacitado para unificar y modelar el espíritu nacional; para absorber lo que constituía propiamente la cultura de Occidente y para prepararse a una época de adelanto sano y macizo. Esos pueden llamarse, en resumen, los resultados del aislamiento. Admito desde luego que pueden señalarse muchos datos lamentables en ello, pero comparándolos con los beneficios, no puedo menos que decidirme en pro de estos últimos, ampliamente logrados. No dejo, sin embargo, de insistir en las divergencias de opiniones que surgen desde los puntos de vista político y de la filosofía general, que los historiadores deploran. Al lado de los juicios generales sobre las ventajas o desventajas del largo aislamiento, debemos insistir en que el hecho no fué total. Por eso quedó constantemente el Japón en condiciones de absorber —, aunque sea despacio y trabajosamente, perdiendo rigor y situándose fuera del marco de aquella época —, tan sólo los buenos aspectos de la cultura científica de Occidente y especialmente salvando el peligro de adoptar los matices de la cultura espiritual que pudieran no haber sido gratos al sentimiento del Japón; tal hecho y sus consiguientes efectos deben tenerse presentes para concluir que fueron provechosos, sin lugar a dudas, para mi país.

F I N

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 38-5468</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4406</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7832 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 102 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 285 - U. T. 38-2683</p>	<p>G. KATO (C. YUASA) Representante de KATO BUSAN KAISHIA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>R. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9487</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3418</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm6. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Esq. No. 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1485.</p>
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-8189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993. COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>